

2021年1月26日

鹿児島県大学病院で骨髄バンクから提供された骨髄で移植を受けた患者さんへ

(医学系研究に関する情報)

鹿児島大学病院輸血・細胞治療部では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

COVID-19 禍により開始された骨髄濃縮・凍結保存処理が移植骨髄生着に与える影響についての研究

【研究機関】

鹿児島大学病院 輸血・細胞治療部

【研究責任者】

鹿児島大学病院 輸血・細胞治療部

特任助教 濱田 平一郎

【研究の目的】

これまで骨髄バンクは移植骨髄の凍結保存を認めていませんでした。一方 COVID-19（新型コロナウイルス）禍にて、確実に骨髄が採取できたことを確認後に移植前処置を始める必要がでてきたため、骨髄液の濃縮・凍結保存・解凍・輸注とも暫定的に許可されました。しかし骨髄濃縮・保存時には細胞のロスが生じるため移植成績に影響を及ぼす事も懸念されます。骨髄保存が許可されていなかった時期と、骨髄保存を行った時期とで移植片の生着に影響があるか比較検討します。また骨髄濃縮時のCD34陽性細胞（造血幹細胞を含むと考えられている分画）回収率に影響を及ぼす因子について検討します。

【研究の方法】

骨髄バンクから提供された骨髄をそのまま移植した場合と、一旦濃縮後に凍結保存し、解凍後に移植された場合での骨髄生着までの日数に差があるかを調べます。また濃縮・凍結処理で減少する細胞数に及ぼす因子を調べます。

【対象となる患者さん】

鹿児島大学病院で2016年1月1日から2021年7月31日の間に骨髄バンクから提供された骨髄で骨髄移植を受けた患者さん

【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

骨髄バンクから提供された骨髄の細胞数、白血球数、赤血球数、CD34陽性細胞数、骨髄濃縮を行った場合は濃縮後の白血球数、赤血球数、CD34陽性細胞数など

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、教育研究基盤経費で実施しますので、利害の衝突は発生しません。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番地1号

鹿児島大学病院 輸血・細胞治療部

特任助教 濱田 平一郎

電話 099-275-5635 FAX 099-275-5641